



ひと 　　かお あか
人はてれるとどうして顔が赤くなるの

かお けっかん ひろ 　　けつえき おお なが
顔の血管が広がり、血液が多く流れるから

ひと なに い 　　かん 　　かお あか
 人に何か言われて、はずかしいなと感じたらぼおとして、顔が赤くなることありま
 すね。これは、しんけい 　　かお けっかん ひろ 　　けつえき 　　なが 　　かお あか
 神経のはたらきで顔の血管が広がって、血液がたくさん流れるために顔が赤
 くなるのです。

けっかん しはい 　　しんけい じりつしんけい 　　じぶん おも 　　ちょうせつ
 血管を支配している神経を自律神経といって、自分で思うように調節することはできま
 せん。

ひと 　　おも 　　じりつしんけい 　　けっかん ひろ 　　もうさいけつ
 人がてれたり、はずかしいと思ったとき、自律神経がはたらいて血管が広がり、毛細血
 かん おお けつえき 　　かお あか み
 管に多くの血液がながれて、顔が赤く見えるのです。

かん 　　はんたい けっかん ちぢ
おそろしいと感じたときは、反対に血管が縮む

はんたい 　　かん 　　じりつしんけい 　　けっかん
 はずかしいのと反対に、おそろしいと感じたとき、やはり、自律神経のはたらきで血管
 ちぢ 　　なが けつえき りょう すく 　　こんど 　　かお あお み
 が縮みます。すると、流れる血液の量が少なくなって、今度は、顔は青く見えるのです。

どちらにしても、しばらくすると、けっかん 　　かお いろ 　　いろ
 血管はもとにもどり、顔の色ももとの色にもどります。
 （監修 保志 宏）

